NTT 推進委員会

介護ロボットＨＡＬの導入～寿松苑新たなる取り組み～

９月 7･8 日に高齢者福祉協議会、東北ブロック老人福祉施設研究会に、寿松苑施設長岩渕一昌・NTT 推進委員会委員長遠藤悦子・介護副主任千葉哲孝と参加してきました。

研究会では、多くの老人福祉施設があるなか、今年の１月１２日から寿松会で導入を開始した「介護ロボットＨＡＬ」の取り組みを評価していただき、そこで６ヵ月間の評価や成果をまとめて発表してきました。

また、以前より寿松会で導入している欧州式トランスファーテクニック（NTT）の移乗等の介護技術や実際に使用している様子も紹介してきました。

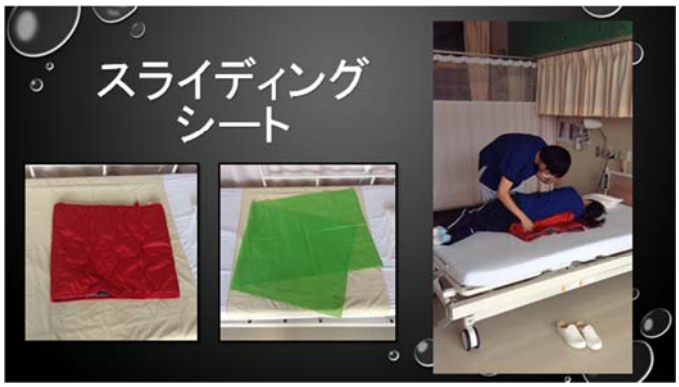
今回の広報では、実際に発表してきました資料を基に内容を紹介していきたいと思います。

＜取り組んだ課題＞

８年前に施設長（当時相談員）が、今までの持ち上げる介護では素人同様で何ら専門性がなく、介護職員の数に頼った介護では近い将来、確実に介護職員不足になる。今のやり方を根本的に見直す必要性がでてきていると提言あり、基本的移乗介助の見直しが始まる。

＜具体的な取り組みとして＞

寿松会では個々の介護技術を向上させ、職員不足に対する取り組みとして、ＮＴＴ推進委員会を立ち上げ、北欧式トランスファーテクニックの移乗等の介護技術を東京で学び、介護職員対象に施設内伝達研修会を開催してきました。



＜日常業務＞

ある程度、「抱き抱えない」「持ち上げない」介護に移行しているものの、日々のオムツ交換・排泄介助時の職員の腰痛予防対策は十分とは言える状況ではありませんでした。そこで、目にしたのが『介護ロボット』の記事でした。マッスルスーツ等、実際に試用し、装着した職員の感想をまとめました。もっと、楽に装着できて、動きやすい物だったら良いという意見が多く、検討課題となりました。効果・価格・長時間の事前講習が必要ではあるものの、日々の業務の課題や職員の意見を考慮した結果、対応していると判断したものがＨＡＬ介護支援用(腰タイプ)でした。

・平成 28 年 11 月 9 日盛岡での講習会に施設長と 2 名で参加。

・平成 29 年 1 月 12 日導入開始する。

＜活動の成果＞

講習会に参加した 2 名が施設内の講師となり 3 名に 30 時間の装着実技を開始。

～取り組み１ヶ月を過ぎ～

・体位交換時にアシストが感じられ楽に体位交換が行える

・中腰状態から体を起こす際、アシストが効いて体が楽

・装着に慣れてきたからか、長時間使用しても疲れなくなった

・アシストの調整で移動時の苦痛なく行えるようになった

＜評価＞

取り組み 6 ヶ月の評価としては、シート・ボード・リフトと介護ロボットの導入は利用者様から見れば、人間の手ではない冷たさを感じないかと不安もありましたが、2 名の職員に「セーノ」と声を掛けられ持ち上げるよりはるかに、快適であるとの声が聞かれており、オムツ交換・体位交換・移乗介助の場合ではＨＡＬなしでの実施は不便さを感じるようになり、職員の腰痛対策としても十分な機能を発揮しています。

＜今後の課題＞

今現在、1 台のＨＡＬでは使用する業務自体が決まっており、その他に使えないか模索中です。ロボット 1 台に一人しか使えない為、非常に高価な物ではあるが、複数台必要である。今年度より、2 年毎に 1 台ずつ増やして行く予定です。